

1. 構想の概要

【構想の名称】

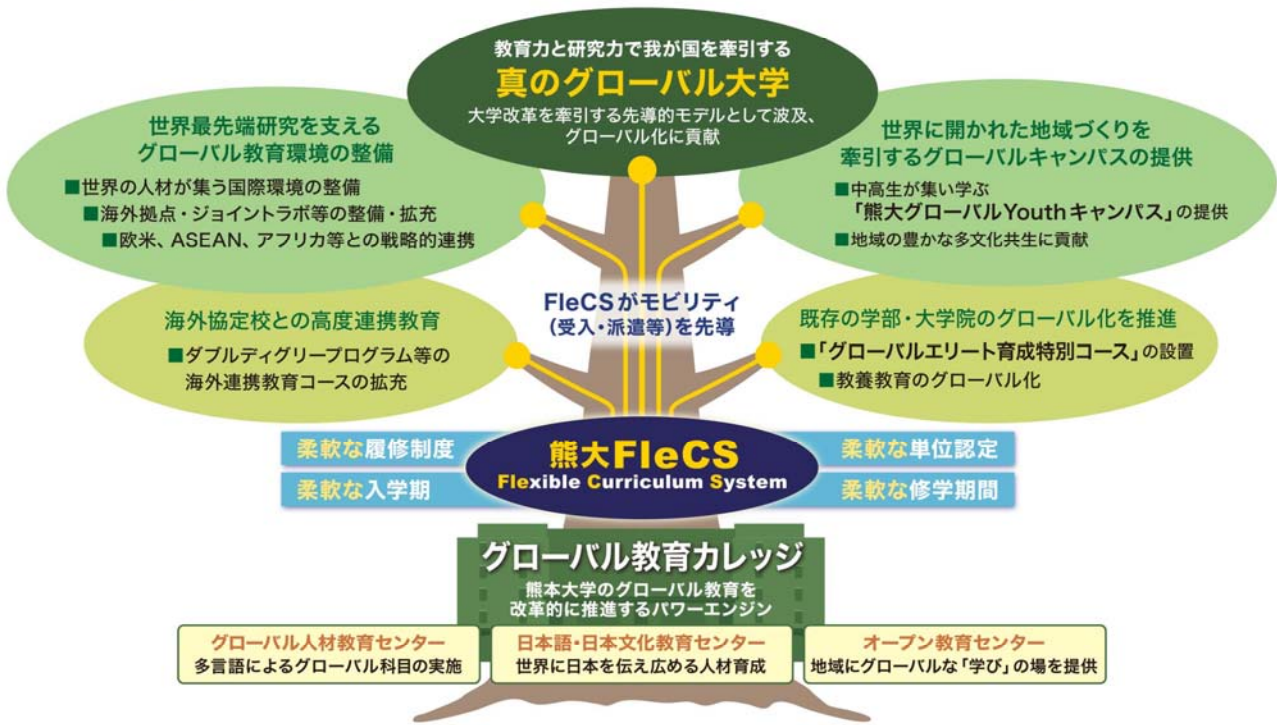
地域と世界をつなぐグローバル大学Kumamoto

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

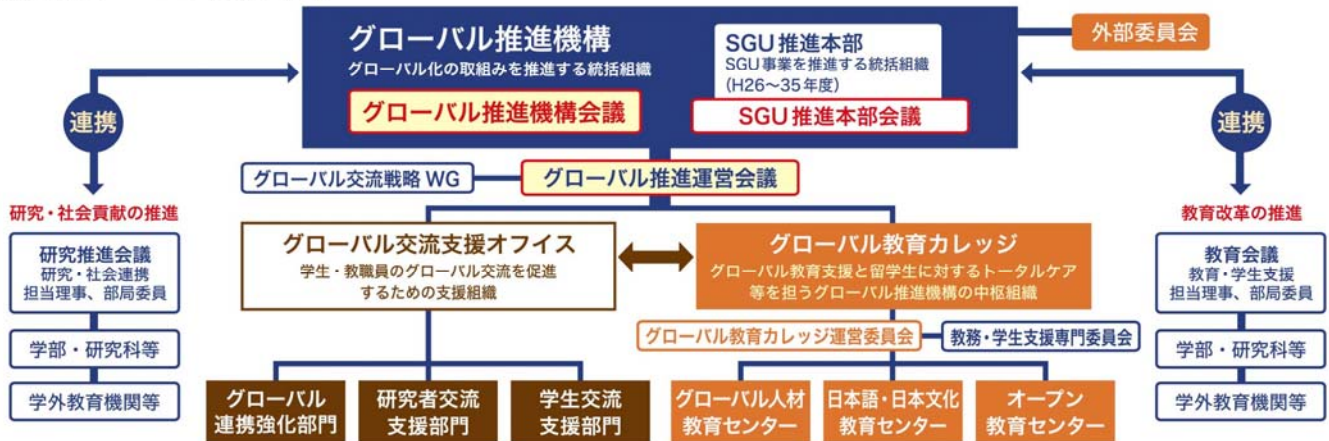
- 世界に開かれた グローバル大学** 互換性とモビリティにおいて国際標準化された教育システムの確立
- 地域の国際化を先導する グローバル大学** 女性の活躍を促進し技術立国を支えるイノベーション人材の輩出
- 国際競争力を誇る グローバル大学** 熊本大学の強みを核とする最先端研究教育プログラムへの接続

【構想の概要】 本構想は、様々な教育改革によって真のグローバル大学への変貌を目指し、以下の4つの目標を掲げ、地域のグローバル化を牽引するとともに、世界に伍する研究拠点大学として地域に貢献する。

- ① 国際通用性の高い学部教育システムの導入
- ② 世界から留学生が集うグローバル環境の提供
- ③ 世界最先端の研究を支える大学院教育のグローバル化と先鋭化
- ④ 世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供



熊本大学グローバル化推進体制



【10年間の計画概要】

スーパーグローバル大学創成支援 (SGU) 事業 工程表

					中間評価	中間評価	
項目	H26 (1年目)	H27 (2年目)	H28 (3年目)	H29-30 (4~5年目)	H31 (6年目)	H32-34 (7~9年目)	H35 (10年目)
外国人留学生 (通年)	(H25) 764人	→ 1,000人		→ 1,250人		→ 1,600人	
留学経験者数 (通年)	(H25) 541人	→ 700人		→ 900人		→ 1,200人	
グローバル化関連	グローバル教育カレッジの設置・体制整備	グローバル教育カレッジ設置 特任教員・コーディネーターの採用 SGUシンポジウムの実施	特任教員等の採用 カレッジ施設整備	海外連携校等の教員の招聘			
	グローバル教育科目の開発・実施	グローバル人材教育センター設置 グローバル科目検討開始	教養科目への導入割合：5%	20%		50%	
	日本語・日本事情科目の充実	日本語・日本文化教育センター設置 日本語クラス講義室の整備	日本語・日本事情科目の充実				
	熊大グローバルYouthキャンパス事業	オープン教育センター設置 高大連携事業	事業参加者数：250人	400人		500人	
	海外拠点の拡充・グローバル広報の強化に向けた取組	交流協定校等での広報活動の実施 広報用ツールの開発	海外拠点の拡充 グローバル広報活動の実施				
教育の改革取組関連	多面的な入試の開発・実施	国際バカロレア、TOEFL等外部試験の活用 海外入試の実施					
	グローバルエリート育成特別コース	開発検討	導入試行	3コース新設	6コース	8コース	
	海外連携教育コース	2コース		4コース	6コース	10コース	
	教育システムの改革	ナンバリング シラバス英語化等の検討	全学全科目でのナンバリング・シラバス英語化、学生による授業評価を展開				
	柔軟な学事暦・入学期等の導入		クォーター制の検討	クォーター制の導入			
ガバナンス関連	組織の整備	SGU推進本部設置 グローバル推進機構設置	組織体制の見直し			組織体制の改善	事業終了後の維持体制指針の整備
	事業推進の評価		準備	自己評価 外部委員会	自己評価 外部委員会		
	環境整備	宿舎の混住等の検討	宿舎の混住促進、新宿舎の検討、民間施設活用の促進				
	グローバルな人事システムの整備	教員の国際公募等の検討	教員の国際公募、教員・職員の年俸制の導入、テニュアトラック制の導入				
	国際通用性の高い教職員の育成	FD研修実施(延べ19名参加) SD研修実施(延べ69名参加)	FD、SDの研修拡充・実施				

【特徴的な取組 (国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

教育改革を基盤とした「真のグローバル大学」への進化を目指し、世界に伍する研究拠点大学としての地位を確立することを目的とした取組である。具体的には、以下の4つの目標を掲げ、大胆かつ実行力のある改革を行う。

1 国際通用性の高い学部教育システムの導入

海外の学事暦に対応する新しい教育システムを導入し、大学院への早期入学や海外留学の期間確保、柔軟な単位互換等を促進する。また、教育のグローバル化を推進する組織として**グローバル教育カレッジ** (「カレッジ」) を新設し、カレッジ内に置く**グローバル人材教育センター**により、英語によるリベラルアーツ科目の提供や学部専門課程における「グローバルエリート育成特別コース (特別選抜コース)」を支援する。

2 世界から留学生が集うグローバル環境の提供

日本語や日本文化を学ぶ留学生に対して、より質の高い教育カリキュラムを提供するため、カレッジ内に**日本語・日本文化教育センター**を置き、外国人留学生や研究者の受入を促進する。

3 世界最先端の研究を支える大学院教育のグローバル化と先鋭化

学部教育から大学院教育まで一貫したグローバル教育プログラムを導入し、グローバルに活躍するエリート人材を育成する。海外派遣制度を整備し、また、欧米の大学を中心にダブルディグリーや国際共同研究をベースとしたレベルの高い海外連携教育プログラムを実施する。

4 世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供

カレッジ内に置く**オープン教育センター**が中心となって、**熊大グローバルYouthキャンパス**事業を実施する。同事業では、地域の高校生等に対して早期のグローバル教育の機会を提供するとともに、海外派遣プログラムの企画、開発及び運営等を支援し、地域に根ざしたグローバル化を推進する。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 「グローバル教育カレッジ」の設置と教育のグローバル化

教育のグローバル化を加速的に展開していくために、グローバル教育の支援及び留学生のトータルケアなどを担う「グローバル教育カレッジ」を創設。「グローバル人材教育センター」では、日本人学生向けの新派遣プログラム(米国)導入、英語による教養・リベラルアーツ科目(グローバル科目)の開発を進め、英語による短期留学プログラム(受入)の強化と教養教育への導入に着手した。「オープン教育センター」では、県内のSSH採択校への海外研修サポートなど、早期グローバル教育の機会を提供した。



〈海外研修におけるポスターセッション〉

○ スーパーグローバル大学創成支援キックオフシンポジウムの開催

平成27年1月、先進的なグローバル化の取組を行っている英・リーズ大学ほかの学長等を講演者に招き、熊本大学SGU構想の紹介、我が国のグローバル教育促進に向けた連携等について意見交換を行った。シンポジウムには、県内の大学・高校関係者、行政及び地域の一般市民を含む約250人が参加し、SGU事業の目的・目標とその実現に対する関心と理解が深まった。



〈SGUシンポジウムに250人が参加〉

○ 留学生受入拡大に向けたプロモーションビデオを制作

熊本大学の留学生や地域市民らの参加・協力を得て、留学生誘致を強化するために多言語のプロモーションビデオを新たに制作した。SGU事業専用のホームページで公開するとともに、交流協定校への訪問や各種留学フェア等の行事において積極的に活用した。

動画URL: www.c3.kumamoto-u.ac.jp/kumadai/movie/



〈動画"Act Now!"(熊大Youtubeで公開中)〉

ガバナンス改革関連

○ SGU事業の推進と大学のグローバル化に向けた新組織の設置

学長を機構長とする全学組織「グローバル推進機構」を平成27年3月に設置し、学長ガバナンスとリーダーシップの発揮による全学的なグローバル化推進の組織体制を整えた。

また、同機構の統轄下に「グローバル教育カレッジ」を創設し、教育のグローバル化に関する様々な取組を始めており、活動拠点として「グローバル教育カレッジ」専用の施設整備を平成27年度中に行うことを決定している。



〈グローバル教育カレッジ棟(平成28年3月完成予定)〉

○ 職員の国際業務スキル向上研修(SD研修)

事務職員のグローバルなスキルの高度化に向けて、平成26年度後期に半年間の通学型語学研修を実施し11人が修了した。

また、海外派遣型の研修として1人がフィリピンにおける英語研修及び交流協定校国際課でのインタビューを含む研修に参加し、グローバル業務への対応力を高めた。なお、平成27年度は、グラスゴー大学等欧米の大学でもSD研修を実施する。

教育改革関連

○ 「グローバルエリート育成特別コース」の設置準備

学部教育におけるグローバル人材育成を実現するために、「グローバルエリート育成特別コース」の設置検討を開始した。また、国際通用性の向上や教育プログラムの体系化の観点から、科目ナンバリングや多言語化にも対応できる新シラバスシステムを平成27年1月から導入した。さらに、先行大学の事例を調査するとともに、平成28年度からのクォーター制導入に向けて、検討を行った。

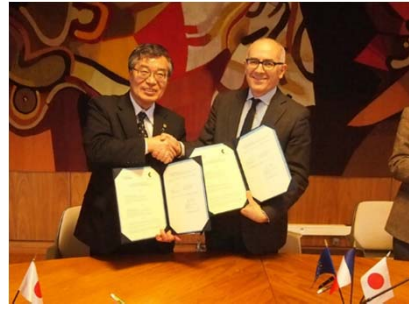


〈フィリピン大学ディリマン校におけるSD研修〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 海外連携教育コースの拡充

ダブルディグリー・プログラム等の海外連携教育コースを拡充するため、平成27年3月にボルドー大学(フランス)と新たなダブルディグリー協定を締結した。また、サブサハラ・アフリカ地域の大学との交流を始めた。平成26年度は、ルワンダ国立大学等、新たに24件の交流協定を締結し、積極的な海外連携の強化・拡大を図った。



〈ダブルディグリー協定書を取り交わす日仏の学長〉

○ 熊大グローバルYouthキャンパス事業

本学が蓄積したグローバル化の資産を地域社会に還元するため、「熊大グローバルYouthキャンパス」事業を展開する。平成26年12月には、グローバル人材及び留学について議論を深めるため、高大接続シンポジウム「高校生と大学生のぶっちゃけトーク!」を開催し、熊本県内の公私立高校12校から24名の高校生が参加した。



〈高大接続シンポジウム風景〉

○ グローバル教育推進のための海外FD研修

本構想で提供するグローバル科目など英語による教育に取り組む教員支援のため、平成27年3月に本学の交流協定校のカナダ・アルバータ大学に1週間教員を派遣し、英語による教授法等に関する現地研修を実施した。参加者は、授業での有効な英語表現、コミュニケーション・プレゼンテーション技能を学んだ。平成27年度は2週間程度の現地研修を予定している。



〈カナダ・アルバータ大学での海外FD研修〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 研究大学として国際先端拠点研究・教育プログラムを推進

平成25年度文部科学省「研究大学強化促進事業」の採択を受け、研究の国際化と研究力の強化を図るため、大学院先導機構拠点形成研究部門内に、新たに、生命科学系、自然科学系、人文社会科学系の国際共同研究拠点を整備した。各拠点に配置された卓越教授のマネジメントのもとに、海外研究者の招へい、優秀な海外若手研究者の雇用、国際セミナーの定期的開催、海外ジョイントラボの整備等を進めている。また、URA、国際研究コーディネーター等を配置し、研究費獲得及び知財取得への支援、国際共同研究にかかるイベント開催の支援、外国人研究者や留学生への事務支援など、全学的な国際研究促進に向けた活動を実施している。



〈生命科学系国際共同研究拠点施設〉

○ 地(知)の拠点として地域に学び問題解決ができる人材を育成

平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」の採択を受け、地域に根ざした大学として、地域に学び、創造力を持って課題解決ができる人材の育成を目指している。平成26年度は、学長をリーダーとする「地域創生推進機構」を設置し、教育・研究・社会貢献を柱に協力機関との連携も強化するなど、運営体制の整備・充実を図った。また、新入生を対象とした初年次教育では、地域の課題を知るために熊本の歴史、文化、産業、医療、環境について広く学習できる「肥後熊本学」の導入をはじめ、地域社会との繋がりがや地域貢献の意識を高めるカリキュラムを充実していくための検討を行っている。



〈地域ラボを活用した学生と住民によるCOC研究発表会〉

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○短期受入プログラムの充実

これまで熊本大学の海外交流協定校に在学する学部生を対象に年1回の日本語によるサマープログラムを実施してきたが、今年度は初の試みとして、英語によるサマープログラムとスプリングプログラムを追加し、計3回の短期受入プログラムを実施した。

東アジア、ASEAN諸国及び米国から参加した計111名の留学生が、座学や見学旅行等の様々な活動を通じて、日本語及び日本文化を体験した。

また、英語によるサマープログラム及びスプリングプログラムでは、留学生と高校生との国際交流活動イベントを企画し、留学生は講義や見学旅行で学んだことを発表し、熊本県内の高校生と英語でディスカッションを行った。



〈 英語によるサマープログラムを実施 〉

○海外語学研修プログラムの拡充

夏季・春季休暇を利用し海外の協定校等へ学生を派遣する海外語学研修を年間5件から8件に増加し、派遣先の拡充を行うとともに内容の差別化を図り、学生に多様な留学の機会を提供している。

派遣先としてモンタナ大学(米国)、リーズ大学(英国)、マッセー大学(ニュージーランド)のほか、東南アジアとしてタイの協定校も企画し、8件合計で100名以上の学生が参加した。学生に語学のみならず各国独自の文化に触れる場を提供することにより、異文化理解の一助となった。



〈 ニュージーランドでの研修プログラム 〉

○グローバル科目の開設

平成27年9月より、教育のグローバル化及び学生の国際交流促進等を担う「グローバル教育カレッジ」において、留学生と日本人学生が共に学ぶグローバル科目(英語による教養・リベラルアーツ科目)を20科目開設した。主に短期留学プログラムの英語コースを専攻する学生を対象とし、延べ74名の履修登録があった。また、自主的に授業を聴講した20名の日本人学生と共にディスカッションを伴う授業を実施した。



〈 グローバル科目での授業風景 〉

ガバナンス改革関連

○グローバル教育カレッジの体制整備

グローバル教育カレッジにて、国際公募により外国人、外国での学位取得者、外国での職務経験者等、国際経験に秀でた教員を雇用し、スーパーグローバル事業推進による大学のグローバル化のための人員体制を整えた。また、採用された教員が中心となり、在校生やSGH・SSH指定校を中心とした九州地区の各高校に所属する生徒へ向けて国際交流の機会提供を開始し、平成28年度以降のグローバル科目導入に向けた準備を開始している。

○職員の国際業務スキル向上研修(SD研修)

事務職員のグローバルなスキルの高度化に向けた研修として、通学型語学研修(半年間)、テーマ型のビジネスライティング研修、異文化コミュニケーション研修を開講し、計54人が受講した。

また、実践力を高める海外派遣型の研修を行い、英国グラスゴー大学等において、自らの企画に基づくインタビュー型研修1人(4週間)、フィリピンにおける英語研修1人(2週間)、海外留学フェア等での業務研修5人が参加した。この他、e-learning型TOEIC講座、TOEIC試験の受験補助等により、外国語力基準(TOEFL-iBT80点相当以上)を満たす職員数が38人となった。(平成28年2月末現在)



〈 グラスゴー大学におけるSD研修 〉

教育改革関連

○平成29年度「グローバルリーダーコース」を設置

国際的に活躍する学生を育成する「グローバルリーダーコース」の設置を決定した。平成29年度に募集する学部及び定員数は、文学部・法学部・理学部が各10名、工学部が20名である。






このコースでは、4学部の連携・協力のもと、独自の教育プログラムであるGOKOH School Programを提供する。

学生は、入学後2年間は英語による授業や専門科目の履修、海外留学などを通して、国際的に活躍できるコミュニケーション力や専門基礎力を養成。3年進級時に希望する学科・コースを選び、多様な価値観を理解できる豊かな教養と国際感覚をベースに高度な専門的能力を習得する。

なお、28年度は、より具体的なカリキュラムの検討及び入学前教育を実施する。

GOKOH School Program

Carrying the Tradition and Advancing with the Spirit

グローバルな視点  Global perspective
開かれた心  Open-mindedness
知識構築は  Knowledge building for
最大限の可能性を引き出し  Optimal possibilities and
より高い目標へと導く  Higher goals

〈 GOKOH School Program 〉

○教育のグローバル化への制度整備

柔軟な学事暦により日本人学生の海外留学、留学生の受入の拡大を促進するため、平成28年度から教養教育におけるクォーター制を導入し、平成31年度までに全学に導入することを決定した。また、授業科目にナンバリングコードを附番して、各教育プログラムにおけるカリキュラムの体系性を明示し、ナンバリングコードを新シラバスシステムに反映することとした。さらに、教育システムの国際通用性の向上のため、海外からも閲覧することができるシラバスシステムの運用を開始した。Web上で英語版シラバスが公開されることで、本学から海外の大学へ留学する場合、また、海外から本学へ留学する学生の履修指導や単位認定に活用することが可能になった。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○グローバルYouthキャンパス

熊本県内の高校生を対象に、サマープログラム及びスプリングプログラムに参加している交流協定校の留学生と交流する機会を設け、高校生とプログラムに参加の外国人留学生が交流を深めた。

また、8月のオープンキャンパスでは「熊大グローバルYouthキャンパス サマー・フェスタ」を開催し、九州内の30校以上の高校から100人を超える高校生が参加した。交換留学経験のある在学生による留学体験発表や国際交流ゲーム、オーストラリアへ交換留学中の日本人学生とのSkypeを通じたセッションが行われ、外国人留学生や留学経験者と交流した。

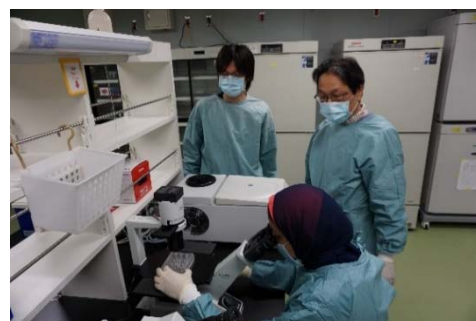
年間8件のイベントに384名の高校生が参加し、熊本大学での留学プログラムや留学について興味を深める機会となった。



〈 グローバルYouthキャンパスには多くの高校生が参加 〉

○海外連携教育プログラムの拡充

協定校・交流パートナー校を開発、活性化し、日本人学生に対するグローバル教育環境の整備・強化、海外からの優秀な留学生確保など質の高い学生交流の枠組みを開発・確立するための取組を実施した。平成27年度にはインドネシア大学等、新たに40件の交流協定を締結、自然科学分野で4大学とダブルディグリー協定を締結した。また、協定校から教員を招へいし、工学、薬学、医学領域の大学院生を対象に国際シンポジウムやセミナーを実施し、国際共同研究を基盤とした教育を提供した。更に、国際先端医学研究機構(IRCMS)ではインターンシップ学生受入プログラムを実施し、7ヶ国8名が参加し、高度な実験手技習得を目指し研究に取り組んだ。



〈 インターンシップ中の学生 〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○国際先端研究拠点における国際的な研究ネットワークの構築

生命科学系国際共同研究拠点の下に研究組織を戦略的に統括する国際先端医学研究機構(IRCMS)を設置した。国際セミナー・シンポジウム等により世界から一線級の研究者を招聘するとともに、国際公募を通して優秀な先導的若手研究者の発掘・育成を行った。

また、自然科学系研究拠点においては、各研究グループ単位において海外研究機関との間で計14件の国際共同研究の覚書を交わし、研究者間における国際研究ネットワークが推進された。



〈 IRCMSにて国際セミナーを開催 〉